

修徳

題字：伊藤博文

発行所
修徳自治連合会
まちづくり委員会
発行代表者 篠原 實
発行責任者 平井 常夫
編集責任者 小西 宏之
印刷所 (有) 章美プリント

女性のつどい
12月9日(土)
今世紀最後の
クリスマス会
女性会

滝とせせらぎのある公園

花と紅葉など四季を感じる公園

修徳公園

高齢者がくつろぎ、子や孫が遊ぶ

みんなで考えた みんなで描いた みんなで創った

アンケートの回答には五百七十八人、公園の利用階層別の話し合いに集まったのが四十九人、さらに、はじめての試みであったワークショップで図面を描いたのが三十人、延べ五百八十六人に及ぶ学区民の大作であった。学区民のこのころの核になる自分たちの「修徳公園」は、独自の景観でデザイン設計された。今後のまちづくりの最初の話し合いと言ってもいいこの公園づくり手順には学ぶところが多く、生かしていく価値のあるものである。

みんなでデザインを描き設計にこぎつけた「自分たちの公園」は「修徳公園」と決まった。京都市が都市計画審議会に諮り、可決された(七月二十一日付京都新聞)。

植える樹木を選ぶときのテーマは「花と紅葉で四季が感じられる公園」になった。花は木に咲く花で鑑賞し、自発的な栽培で大きくとられた。

特別養護老人ホームの高齢者の方が階段の窓から下を眺めると、芝生の広場の様子が見える。その東屋のベンチに座って話をしている学区民たちの、目線の高さにある「滝」が「せせらぎ」の源になるという構図だ。

アンケートの回答数では少数意見でも、特記事項で、わざわざ「水」はどうかと記入する声は多かった。ワークショップでは、生(生)の広場の東南寄りに東屋(建築用語では四阿)が見える。その東屋のベンチに座って話をしている学区民たちの、目線の高さにある「滝」が「せせらぎ」の源になるという構図だ。

各団体に協力求め体制かためる

十月十六日、まちづくり委員会は、修徳公園の全体像の最終デザインの確認を行い、さらに、「門扉の設置と施錠」に匹敵する管理体制をつくることを決めた。修徳公園を利用する近隣町内会をはじめ、学区民に不安を与えないために、「修徳公園の安らぎをまもる会(仮称)」を構成し、連絡会議を常設して管理する。

(一) 総合福祉施設のガードマンの昼夜の警備見回り時に、公園内も監視し

てもらう。警備状況や異常の「兆候」を「まもる会」に報告してもらう。

(二) 交番連絡協と防犯推進協は元町警署交番警官の頻繁な公園巡回を依頼し、連絡を密にする。

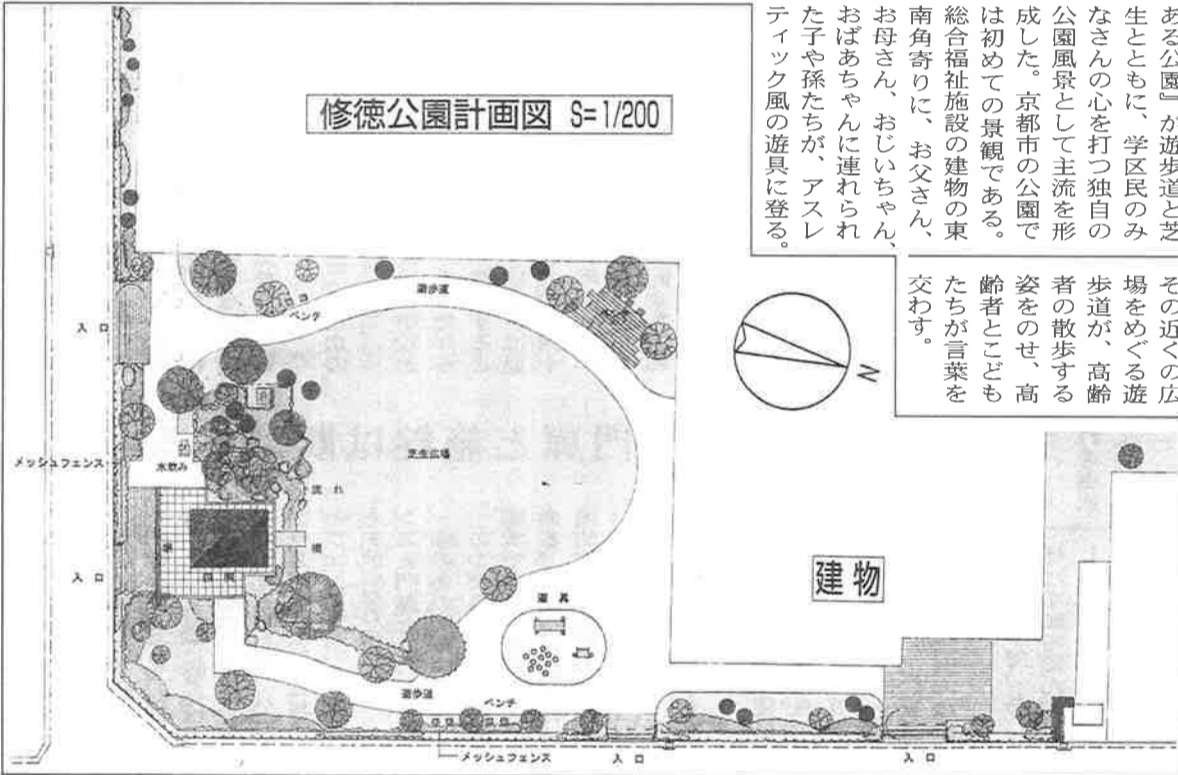
(三) 消防分団、少年補導委員会、交防協は、夜回り、夜の青少年補導、単車や自転車の持ち込みの監視などの活動を通じて、公園の監視をする。

(四) 更保婦人会は、子育て支援を公園内で行ない、観察を兼ねる。

(五) ボランティアを加え学区全体で取り組む。

(六) 風紀の乱れや犯罪の「兆候」に対しては、交番警官に対応を依頼し、それでも、対策が手詰まりと判断すれば、ただちに、京都市に緊急の仮設対策と、常設門扉の設置と施錠を要望する。

修徳公園計画図 S=1/200



修徳公園の魅力

児童みつめた イチヨウ センダン

百周年記念樹

は、「せせらぎ」の折れ曲がる所、東屋の東北角寄りに移植する。修徳小学校の児童を何十年と見てきた象徴的なイチヨウの木は、老木だったので移植に耐えられないと捨てられてしまった。建物のし字に曲がる所の簡易ステージの付近に、新しいイチヨウを植える。

せせらぎの水はどこからとる?

約一メートルの高さの滝の水は、井戸を掘削して地下水を汲み上げて流す。夏は冷たく、冬は暖かい水が毎日、時間帯をきめて流れる。流れた水は浅い池で

遊歩道と芝生

芝生の広場には、四百人が集える。遊歩道との高低はないので、遊び程度のテニスコートでテニスの練習やグラウンドゴルフなどできる。

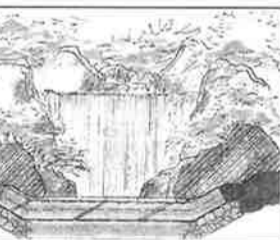
京都市の公園で初めて

遊歩道からの視線

「自然や山の魅力にひかれて、素人登山者がふえた。」

「山の現場はごみの処理に頭が痛いという。」

「みは持ち込まない。出したごみは必ず持って帰る。」ことを実践しないと、せつかくの自然に触れる機会も、やがて制約を受ける。修徳公園は層入れを置かないことになった。公園を利用する皆さんに「持ち込まない。持ち帰る。」を実践していただき、美しい公園の気持ちよさを知っていただく。シンドニーの女子マラソンで金の高橋尚子が「すごく楽しい四十二キロ」と言ったとき、ふと、シラーの『美と芸術の理論』を思い出した。「たいていの道徳論では「善い行為とは、我欲を押さえて、若しくは、人のためになる事をする」と。だと教えている。シラーは自分が楽しい「なにか」をすすんでやる。自然に喜んでやることが、ひとのためにならなければならないのだと思う。頭を丸坊主にさせて、根性を鍛える形を強いても、その競技に合わない筋肉を鍛えていたらすと、練習は徒勞に終わる。生徒に専門的な情報を自分で調べさせ、合理的な方法を先生と議論し、やりたいう練習をする。問題解決に必要な情報の検索力や、自発的な批判的精神を育てる。これが情報化社会の教育だと思ふ。」



ベンチには背もたれ

切り株風のも連ねる

公園の西側、建物の東側境界付近のベンチは、図面よりも増やすよう注文している。ベンチは背もたれをつけて、高齢者が安全に座れるようにする。公園東側には、図面のベンチの位置よりも南側に、追加して、木の切り株風のもの数を数個つけて連ねる。座ったり、こどもがポンポンと跳んでいたりできる。

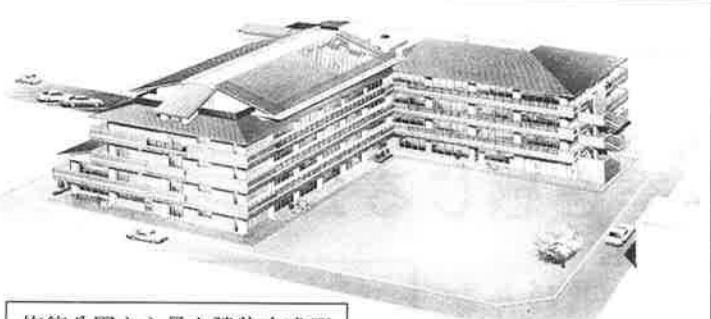
東屋の前に

瓦葺き土塀

照明は「ルクス二本

照明は「ルクス」の明るさで、芝生の広場の東端

ワークショップで最終デザインの決定に若い女性の発想も生かす
水本克代さん(左) 菊池 泉さん(右) 富永町



修徳公園から見た建物完成図



ワークショップは初めての経験である。アンケート回答と利用階層別の話し合いで決まっている内容、例えば、芝生の広場と遊歩道、遊具とベンチ、フェンスと門扉などを前提にして、しかも、創造的なアイデアを提出してほしいという主催者のむずかしい注文を、メンバーの三十人は受けることになり、実際の発想にはいった。

公園デザインを描く会 ワークショップ

三回で魅力ある統一デザイン

四デザインに独特の発想探る

第1回

公園デザインを描く会という名称の「ワークショップ」のメンバーは、第一回(八月五日)の会合でA、B、C、Dの四グループに分かれる。それぞれが、あたまたに浮かんだ言葉や専門家に告げる。専門家は、ひとつひとつの発想を小さいメモに書き移して、予定地の図面の周囲に貼っていく。こういうやり方で、四グループのデザインが左下の図のように、ラフにできあがる。これらの四デザインを、広場を中心と比較し、独自性をみてみよう。大きく芝生の広場をとつ

芝生の公園だけか せせらぎ加えるか

第2回

(一)芝生の広場だけに
するか、せせらぎを採用するか、(二)フェンスは豪華な御所風石垣か、町家にマッチする瓦葺き土塀か、この二項目の組み合わせで二案をつくる

せせらぎとフェンス 圧倒的な拍手で決定

第3回

ところが、京都市建設局緑政課でさつと積算してみると、土塀が原因で

前回はベンディングになった「御所風の石垣」かを先に選択することであった。ところが、四つの組み合わせ(一)せせらぎなし土塀あり、(二)せせらぎあり土塀なし、(三)せせらぎありフェンスありからどれかを選択する。結果は、(三)(四)

近隣町内会のみなさんの生活の安らぎを守るため、修徳公園の管理は語れない。それが、ひいては公園を利用する学区民のみなさんのふれあいや憩いの雰囲気を守っていくことになる。
修徳小学校があった百二十年余の間、当然のことながら塀があつて、その景観のもとで学区民は小学校と接してきた。その感覚があつたからか、アンケートの回答を集計すると、フェンスと門扉の設置を望む声は過半数には達しなかったものの(四十七%)「公園は自由で開放的な利用が当然でフェンスはいらない」とする声(三十八%)を少し上回った。利

公園周囲に簡易石垣とフェンス

門扉と施錠は断念する

用階層別の話し合いでも、フェンスと門扉ができて、「自分たちの公園」という意識に変化はないと、フェンスなし層のひとたちに納得していただいた。そして、公園の景観にもプラスになると、最終的には「石垣とフェンス」が、ワークショップでも主流になり決定した。もちろんフェンスと門扉とはわれわれの認識では一体のものであつた。
いっぽうで、公園は災害時の避難場所であり、西南寄りに防火水槽がある。緊急時災害時に施錠すれば、消防車や学区民の進入ができないという問題も残されていた。
ところが、オブザーバーとして

必要な安らぎ守る態勢

出席の京都市建設局緑政課をも巻き込んで、質疑応答も交渉も同時進行のようなかたちになってしまった。
ただ、そのなかでわかつた京都市の公園行政の基本的な立場は(一)公園は、いつでも自由に利用し憩える開放性を原則にしている。(二)今まで門扉の設置と施錠をした例がない。(三)京都市の公園全体で今のところ治安全とくに問題がない。ということであり、「例外はご容赦いただきたい」という意向が強かつた。その雰囲気から、平井まちづくり委員長は、京都市から「門扉の設置と施錠」の同意を引き出すのは無理と判断し、今後の公園管理と設計内容の細目については、まちづくり委員会に一任していただくことを提案し、拍手で承認された。

論点

公園デザインは特筆もの 反省点は今後を生かそう

今回のワークショップは、「市民と行政とがともに責任ある主体として協力し合つていけるしくみ」(京都市基本構想)で実現しようとした。学区民の発想からつくる「自分たちの公園」なので、予算も規格の公園の予算よりある程度余裕はみてくれている。「瓦葺き土塀」が予算オーバーの原因になったとき、前回の「瓦葺き土塀」か、「御所風石垣」かの選択をして公園の全体像を決定してから、個別アイテムのグレードを落とす手順が必要だった。例えば、各入口に五百万円の松を独自の風景としても、予算は自分たちの税金でもありグレードは落とさざるを得ない。結果は同じでも、適切な手順を単なる手順のひとつくらいに軽視していると、予算が公園の全体像を変える印象づけてしまう。
「門扉の設置と施錠」の問題も、まず、緊急出入りの問題と公園治安の矛盾を調整して、ワークショップで可否の決定をし、全体像を確定して交渉に入るべきであったと反省している。
ワークショップでの専門家がたの協力には感謝している。その役割は、多くの発想のコーディネートで、運営手順に思い及ばないのは当然で、議事進行の司会者が別に必要だった。
到達した公園デザインの成果は特筆すべきものである。慣れないための反省点はあつても、また、一人ひとりの納得から合意を形成する組織運営の手法も、学区民のご理解を得られたと信じていた。

編集後記

□ワークショップは、修徳公園の出色の最終デザインを完成した。□公園の憩いや安らぎを、崩させない雰囲気醸成したい。
□予算の関係で、広報紙の公園図案は黒白で恐縮である。□各町内会に回覧するカラー図面を見ていただきたい。

ワークショップ 参加のみなさん

- 浅野 三朗(消防分団)
 - 入江 博三(感養者・高砂)
 - 岡本 宏一(理事会)
 - 柿本 禎三(理事会)
 - 数井 晴次(対協会)
 - 菊池 泉(近隣・富永)
 - 小西 宏之(理事会)
 - 小林 毅功(理事会)
 - 酒井 悦子(少補委)
 - 櫻田 佳正(理事会)
 - 佐倉 道彦(体振会)
 - 篠原 實(理事会)
 - 下田 毅一(近隣・材木)
 - 瀬野 平夫(理事会)
 - 田中 豊(近隣・徳万)
 - 谷山 新一(理事会)
 - 近藤佐太郎(理事会)
 - 都倉 昭蔵(修和会)
 - 中谷 隆亮(感養者・布屋)
 - 中村 弘一(修和会)
 - 中村 哲也(近隣・小田原)
 - 中村 順恵(理事会)
 - 平井 常夫(理事会)
 - 福井 謙三(理事会)
 - 堀 順象(理事会)
 - 松本 祥男(理事会)
 - 松本 泰彦(理事会)
 - 水本 晃代(近隣・富永)
 - 森 修司(理事会)
 - 山岸 春子(女性会)
- ※敬称略五十音順
※理事会◆印まちづくり委員